



G03

翻訳プロジェクト

海外における下田歌子研究の動向を探って

下田は海外にも知られており、その功績が日本語以外の文献でどのように取り上げられているかを探求することが、このチームの関心の的である。まずは *U.S.-Japan Women's Journal* No. 44 に掲載の Linda L. Johnson (2013) を、香川 せつ子 監訳、村上まどか・志渡岡理恵 共訳「明治の『発信する知識人』としての女子教育家-下田歌子と津田梅子」と題して、この2月、当研究所『年報』第9号に収録した。



ジョンソン氏は、実学によって家政を司る良妻賢母主義の下田と、教養教育によって夫と対等になる自主独立主義の津田を好対照として論じていた。本論文は下田歌子の氏名を題に掲げた最初の英語文献と言えるであろう。

リンダ・L・ジョンソン(コンコーディア大学歴史学部名誉教授、写真はLinkedInより)

中国女子教育への下田の影響

清朝末期の革命家・秋瑾が、実践女学校に留学して下田の教えを受けながら、辛亥革命への情熱の炎を燃やしていた-これは Travis Thompson (2011) による、米国のウィリアム・アンド・マリ大学紀要論文の趣旨である。他、中国語原文の黄湘金(2007)「『遠い江湖』から『高い廟堂』へ」(山西師範大学紀要)や戴宇龍(2016)「20世紀初頭の中国における日米家政学理念の普及」(河北大学紀要)が、下田流家政学の中国への浸透を論じている。これらの文献はニューズレター No. 22 で紹介される予定である。



秋瑾(1875-1907、実践女学校留学生 1904-1905)

翻訳チームはさらなる飛躍へ

外国語文献の和訳のみならず、日本語文献の英訳も検討中

◎村上まどか・高橋桂子・駒谷真美・松田純子・香川せつ子